

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「変わる税率」

東村山市立第七中学校 3年 平山 愛紗

「消費税及び地方消費税の税率が8%から10%に引き上げ」そんなニュースを聞いたとき、とても驚いた。そして、正直なところ「嫌だな。」と思った。そんなニュースからおおよそ5年。今や、消費税10%は当たり前になりつつある。

そんな世の中で私が抱いていた疑問の一つが「テイクアウトとイートインで消費税の税率が違う」ということ。同じものなのに食べる場所によって税率が違うのがなぜか疑問に思っていた。調べてみたところ、テイクアウトは「飲食料品の販売」という行為、イートインは「飲料食品の販売」そして、「飲食料品を飲食させる役務の提供」という行為をさす。このことから、消費税の中での税率の違いは「人の労働」によるサービスが関係しているということがわかる。そして、「人の労働」は税率が上がるだけの価値があるのだと、今更ながら気づかされた。また、その2%の増税は、人が自分に対して行ってくれた労働、サービスに対する感謝の気持ちだとし、快く10%の消費税を支払えるような人になりたいと思う。

しかし、最近は物価高により、生活が苦しくなっている。特に人々を苦しめているのが、食材・食料品、ペーパー類、そしてガソリン代などだ。ただそのものの値段、それらに対応する消費税を払うだけでも大変。しかし、ガソリンにおいては「ガソリン税」など、他の税金を支払わなくてはならないものもある。物価が高く、税が多いほど、人々の負担は大きくなる。自分の生活に余裕が無い中で、高くなった消費税を快く支払うということは簡単な行為ではない。そう思う。

しかし、生活が苦しくなっているのは自分だけでなくみんな。消費税の税率が上がったのも自分だけでなくみんな。物価高で苦しい今だけれど、私たちの生活は、みんなから支払われた税金にたくさん支えられている。だからこそ、誰もが支払う税金は重要なのだ。この重要性を理解して、ただ支払わなくてはいけないから税金を支払うという考え方を無くしていきたいと思った。

税金のなかでも私たちにとって最も身近な消費税。所得の多い誰かに任せるのではなく、子供から老人まで多くの人に関わっている。そんな消費税だからこそ、自分の支払いに責任を持って「誰かのお陰で充実した世の中」ではなく、自分もその「誰か」の一員で、税によって人々を支え、同じように人々に支えられている、という自覚をもって生活していきたい。消費税とは、「誰かではなく、みんなのお陰で充実した世の中」の税として、お金としての表れなのだと思う。